

本町小学校 生活・総合的な学習の時間の目標・全体計画

学校教育目標

人や自然に進んでかかわり、自ら学びを高め、心豊かにたくましく生きていく力を育てます。

～自己教育力とコミュニケーション力の育成～

- ㊦ 本物にふれ、豊かな感性・心を育てます。(徳・公)
- ㊧ 地域やなかまとのかかわりを大切にします。(公・開)
- ㊨ よく考え、自ら学びを高めていく力を育てます。(知・開)
- ㊩ 運動に親しみ、自らの体や心の健康に関心をもち、自他の生命を大切にします。(体・徳)

生活科の目標

本町の学校やまちにある本物(「ひと」「もの」「こと」)に関する具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、思いや願いの実現に向けて課題を解決し、自立し生活を豊かにしていくことができるように、以下の資質・能力を育成する。

(1)知識及び技能の基礎

本町の学校やまちの本物(「ひと」「もの」「こと」)に関わる活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴のよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付ける。

(2)思考力・判断力・表現力等の基礎

本町のまちに関わる身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活とつなげて考え、相手や目的に応じて多様な手法で表現する。

(3)学びに向かう力、人間性等

本町のまちの本物(「人」「もの」「こと」)である身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、自分のよさや成長に気付き、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、本町のまちにある本物(「ひと」「もの」「こと」)に関わる横断的・総合的な学習を通して、目的に向かって思いや願いを高めながら課題を解決し、自己の生き方を高めることができるように、以下の資質・能力を育成する。

(1)知識及び技能

本町のまちの本物(「ひと」「もの」「こと」)に関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、本町のまちや身近な社会にはそれぞれ特徴やよさがあることに気付き、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。

(2)思考力・判断力・表現力等

本町のまちや身近な社会における思いや願いを実現するために、問いを見だし、解決の見通しをもって、解決に必要な情報を収集し、集めた情報を観点に応じて整理分析し、それをもとに判断したり、相手や目的に応じて表現したりする力を身に付ける。

(3)学びに向かう力、人間性等

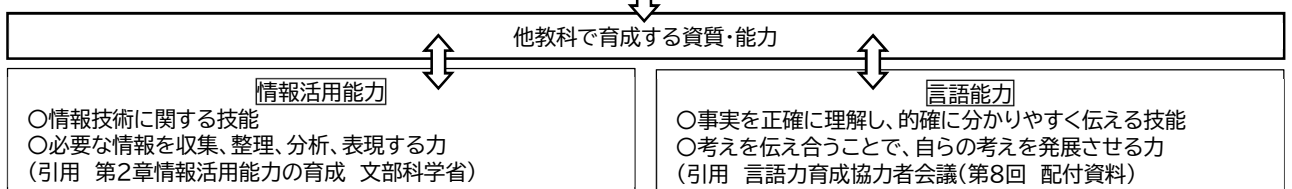
本町のまちの本物(「人」「もの」「こと」)についての探究的な学習に主体的・協働的に取り組む中で、自分や友達のよさや違いに気付き、それを生かしながら、本町のまちや身近な地域など自分や自分を巻きくらしを豊かにし、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

令和6年度 研究主題

「響き合い、自ら学ぶ子の育成」

本町小学校が生活科・総合的な学習の時間で育成することを旨とする資質・能力系統一覽

学年	知識及び技能の基礎	思考力・判断力・表現力等の基礎	学びに向かう力・人間性等
低学年	自分・仲間・本物の特徴やよさ、関わり方に気付く。 【多様性】	思いや願いをもち、その実現に向かって、自分なりの解決方法や道具を選択する。 【課題設定】	自分の成長を実感し、自己のよさを理解しようとする。 【自己理解】
	自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることに気付く。 【相互性】	繰り返して栽培・飼育・遊びなどの体験の中で試したり、考えたりする。 【情報収集】	自分の思いや願いをもち、粘り強く取り組み、力を合わせて活動する。 【主体性・協働性】
	様々な体験を通して、生活上必要な習慣や技能を身に付ける。 【技能】	体験して分かったことをもとに分類したり、対象の同じところ、違うところを比べたりして、特徴を考える。 【整理・分析】	
		体験したことをもとに振り返り、自分の思いをもち、相手に伝わるように表現する。 【まとめ・表現】	
学年	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
中学年	本町のまちには、様々な文化や自然環境などがあり、それぞれに多様な特徴や魅力があることに気付く。 【多様性】	願いの実現に向かって、問題状況の中から課題を発見し、解決の方法や手順を考える。 【課題の設定】	課題を解決する過程で、自分のよさに気付き、他者の考えを受け入れようとする。 【自己理解・他者理解】
	本町のまちには、様々な文化や自然環境などは、かかわったり、つながったりして存在していることに気付く。 【相互性】	体験や調査など情報収集の手段を選択し、解決に必要な情報を収集する。 【情報の収集】	自分の思いや願いをもち、課題の解決に向けて粘り強く取り組み、力を合わせて活動する。 【主体性・協働性】
	人々は、思いや願いをもち、周囲の人々と力を合わせてそれを実現しようとしていることに気付く。 【連携性】	比較したり、分類したり、関連付けたりしながら情報を整理し、事実や関係を捉える。 【整理・分析】	探究的な活動を通して、自分の成長を自覚し、自己の生き方を考え、夢や希望をもとうとする。 【将来展望・社会参画】
	調査活動を目的や対象に応じて、適切に実施する。 【技能】	課題の解決に向けて、根拠をもって自分の考えをもち、相手に伝わるように工夫しながら表現する。 【まとめ・表現】	
	思いや願いの実現ができたのは、解決すべき課題について探求的に学習してきた成果であることに気付く。 【探究的な学習のよさの理解】		
高学年	本町のまちの文化や自然環境などは、様々な要因で常に変化する可能性があり、限りがあることに気付く。 【有限性】	願いの実現に向かって、問題状況の中から課題を発見し、解決の方法や手順を考え、解決の見通しをもつ。 【課題の設定】	課題を解決する過程で、自分の特徴やよさに気付き、異なる意見や多様な考えを受け入れて、尊重しようとする。 【自己理解・他者理解】
	それらにかかわる人々や組織は、連携、協力してそれぞれの思いや願いを実現しようとしていることに気付く。 【連携性】	体験や調査など情報収集の手段を適切に選択し、解決に必要な情報を収集する。 【情報の収集】	自分の思いや願いを高めながら、課題の解決に向けて粘り強く取り組み、協働的に活動する。 【主体性・協働性】
	人々は、一人ひとりが責任を自覚し、変容・変革することにより社会を構築しようとしていることに気付く。 【責任性】	比較したり、分類したり、関連付けたりしながら情報を整理し、目的に応じて事実や関係を捉え直す。 【整理・分析】	探究的な活動を通して、自分の成長を自覚し、進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組もうとする。 【将来展望・社会参画】
	調査活動を目的や対象に応じて、適切に実施する。 【技能】	課題の解決に向けて、根拠をもって自分の考えをもち、相手や目的に応じてわかりやすく表現する。 【まとめ・表現】	
	思いや願いの実現ができたのは、本町のまちの本物(「人」「もの」「こと」)について理解し、解決すべき課題について探求的に学習してきた成果であることに気付く。 【探究的な学習のよさの理解】		



令和6年度 研究方針

【本校の特色】

本校は、創立 120 年目を迎えた歴史と伝統のある学校である。学区には、中央図書館や野毛山動物園、開港記念会館、県立音楽堂など、数多くの有名な公共施設が点在し、それらを活用しやすい環境にある。学校周辺には、老舗の商店や小売店、飲食店などが並び、地域に根差した人々が生活する昔ながらのまち並みが広がっている。一方、少し足を延ばすとみなとみらい地区の新しい商業施設が多く見られ、歴史と近代技術が融合し、新旧が調和しながら新しいものが生み出されるまちだと言える。そこには、子どもたちの取組に力を貸してくださる企業や施設の方、登下校を見守り、声をかけてくださる地域の方、本校の卒業生やその保護者など、子どもたちの成長を心から願ってくださる方々の存在がある。

I 研究主題について

1 研究主題

本校教育理念「自己教育力の育成」を基盤とした
響き合い、自ら学ぶ子の育成

2 研究主題設定の経緯

本校学区は「本物」にふれる機会に恵まれているからこそ、子どもたちに豊かな心が育ち、感性が磨かれていくことを願い、平成 29 年度に「生活科・総合的な学習の時間」の研究が始まった。今年で 8 年目を迎える。研究を進める中で大事にしてきたことは、「本物と関わりながら体験的に学ぶこと」「本物がもつ価値を子ども達が見出し、生きる力を育むこと」である。

研究を重ねるごとに、子どもたちが思いをもって夢中になって楽しむ姿や、課題解決に取り組む姿が見られるようになった。令和 2 年度からは、「響き合い」をキーワードに、意欲を高めるだけではなく、子どもたちの学びが深まるように、子どもが自分と仲間と本物と「対話する」ことに力を入れて取り組んできた。

研究を通して見られた子どもの姿は、本校の教育目標である「人や自然に進んで関わり、自ら学びを高め、心豊かにたくましく生きていく力を育む子ども（自己教育力・コミュニケーション力）」につながるといえる。特に「響き合い」（自分・仲間・本物）をテーマに設定したこともあり、学校教育目標の人や自然に進んで関わることやコミュニケーション力の面では、本校の子どもたちが力を付けられた部分であり、学校教育目標に迫ることができた姿と言える。今後も、人や自然と関わり、コミュニケーションを図る姿を大切な土台としながらも、さらに学校教育目標に迫る研究にするために、昨年度は、自ら学びを高める「自己教育力」について、焦点を当てていこうと考えた。このような経緯で、令和 5 年度から研究主題を「響き合い、自ら学ぶ子の育成」とした。

3 研究主題設定の意図

これまでの研究のあゆみから、

自分との響き合いでは、自分の思いだけでなく、活動の目的や相手を意識して思いや願いをもつ姿や、本物や専門家と関わり振り返ることを通して、地域への愛着をもつ姿や子どもの生活や生き方に変化が見られるようになった。

仲間との響き合いでは、友達の話に興味をもって反応して聞いたり、疑問をもって質問したりする姿があった。さらに、仲間と活動の目的を確認しながら、I C Tを活用して情報を集めたり、他教科で既習した内容を生かしながら成果物をまとめたりする姿も見られるようになった。

本物との響き合いでは、本物と繰り返し関わることで、材の魅力やその面白さ、また、まちの方々と触れ合う中で得られるまちの人の思いや人情味溢れる心の温かさに気付くことができた。

これまでの研究をふまえ、「自分・仲間・本物」と対話する「響き合い」を通して、思いや願いの実現に向けて様々な問題解決をし、社会や生活の中で生きて働く知識・技能を獲得し、自分の成長や変容を実感する子どもを「自ら学ぶ子」と設定した。また、資質・能力系統一覧にして 2、3 ページのように整理した。

4 昨年度の成果と課題

昨年度の研究を通して、主題で設定した『響き合い、自ら学ぶ子の育成』について成果や課題を振り返った。本校のこれまでの研究で大切にしてきた『資質・能力を育む単元計画・単元構想』の有効性が改めて確認された。また、『自ら学ぶ1時間の授業づくり』のうち、教師の働きかけや環境設定などの手立てを打つことで、研究主題に迫れることが分かった。

さらに、研究を重ねていく中で、「自分で考え、行動していく姿」が一つの自ら学ぶ子の具体の姿としてみえてきた。昨年度は研究主題を新たにした1年目であることから、引き続き今年度も『響き合い、自ら学ぶ子の育成』を目指して研究を進めていく。

一方で、課題も新たに分かった。振り返りについて、悩んでいる意見が多くあった。具体的には、「どうしたら良い振り返りができるのか」「どのような振り返りが良いのか」「振り返りには、何を書いたらよいのか。」などである。振り返りは一つの子どもの姿であることから、振り返りを大切にすることは研究主題である、『響き合い、自ら学ぶ子の育成』につながると考えた。

これを受けて、校内の全体会で、目指す振り返りの姿やそのための手立てについて協議した。そこでは下記のことが見えてきた。

目指す振り返り	手立て
<ul style="list-style-type: none">・感じたことを自分の言葉で表現している・めあてに対して書いている。・次の見通しをもっている・成長に気付いている。	<ul style="list-style-type: none">・めあての明確化・自ら学ぶ子を目指した支援・振り返りの蓄積

目指す振り返りについては、これまで研究してきた自己評価（図1参照）とつながっている。こうした振り返りを目指し、めあての明確化、自ら学ぶ子を目指した支援、振り返りの蓄積という手立てを大切にしながら、今年度は「響き合い、自ら学ぶ子の育成」を目指していきたい。

（図1「自己評価」）

・～ということが分かった	（理解の状況の自己診断）
・最後までがんばった	（取組の姿勢態度の自己診断）
・初めは分からなかったけれど…	（学びの過程の自己診断）
・よりよい〇〇に気が付いた	（理解の捉え直し）
・～できたのは、〇〇だからだ	（満足感・充実感の味わい直し）
・次は〇〇したい	（次の学びへの期待、思いや願い）

Ⅱ 研究内容

研究仮説

本物と関わり、仲間や自分と対話する響き合う機会を適切に設け、思いや願いの実現に向けて様々な問題解決を繰り返し、自己の成長や変容を実感していくことで、「響き合い、自ら学ぶ子」になるだろうと考えた。

このことから、「響き合い、自ら学ぶ子」とは、「自分・仲間・本物と対話を積み重ねながら、問題解決をし、社会や生活で生きる知識を獲得し、自己の成長や変容を実感する子ども」と整理した。「響き合い、自ら学ぶ子」の育成を目指して、(手立て1)『資質・能力を育む単元計画・単元構想』、(手立て2)『自ら学ぶ1時間の授業づくり』の手立てを講じる。

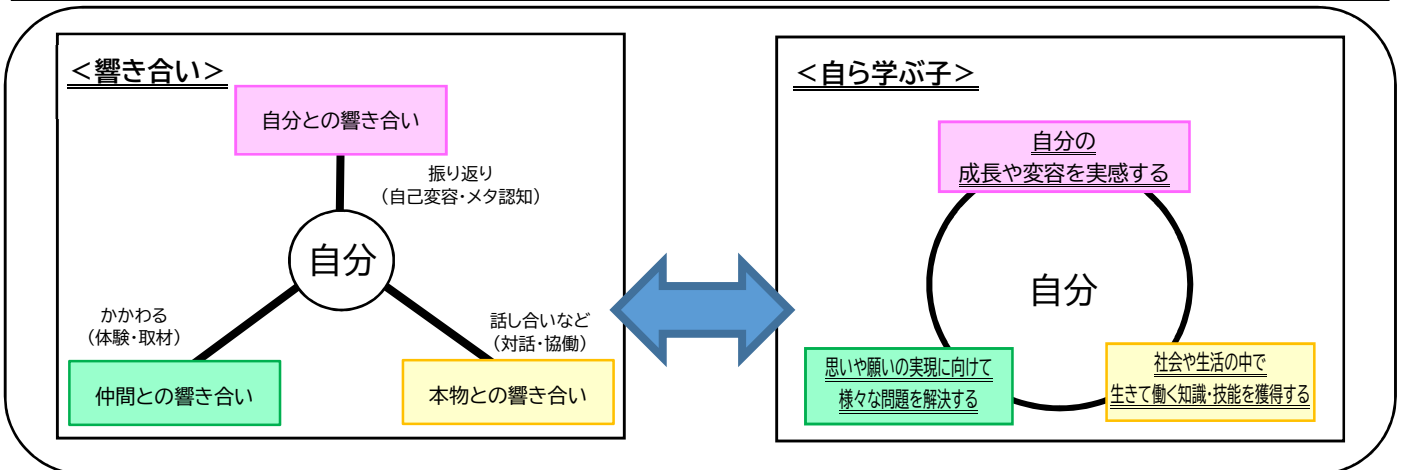
また、昨年度の研究から「振り返り」も改めて大切にすることで、「響き合い、自ら学ぶ子」をより目指せるのではないかと考えた。

学校教育目標

人や自然に進んでかかわり、自ら学びを高め、心豊かにたくましく生きていく力を育てます
～自己教育力とコミュニケーション力～

令和6年度 研究主題

「響き合い、自ら学ぶ子の育成」



手立て2

『自ら学ぶ1時間の授業づくり』

・めあての明確化 ・働きかけ ・環境設定 ・振り返りの手立て

手立て1

『資質・能力を育む単元計画・単元構想』

【見抜く】…本物がつもつ価値を見抜き、目指す子どもの姿を具体にする。

【見極める】…対象や材の特性に応じて、専門家とどの時期やタイミングで出あわせるとよいかを見極めて、単元計画や単元構想を立てていく。

今年度大切にしたいこと

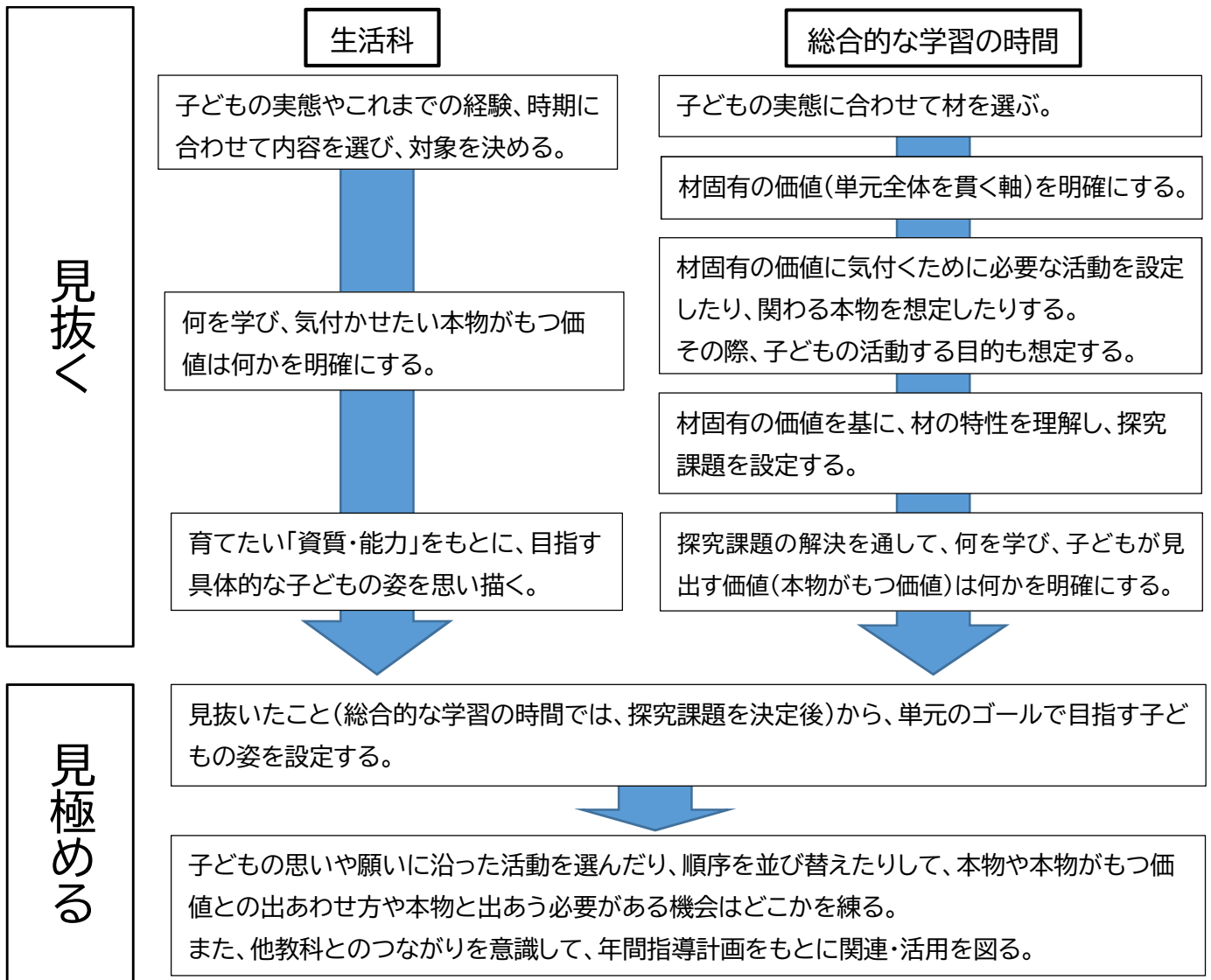
『振り返り』

- ①めあての明確化
- ②授業づくりの支援
- ③振り返りの蓄積

【手立て1】資質・能力を育む単元計画・単元構想

「響き合い、自ら学ぶ子の育成」を目指すためには、子ども一人ひとりが、学習課題を自分のものにするとともに、自分なりの考えや思い、願いをもって臨むことが必要だと考える。また、それらを育むことができる体験や活動の充実を図る必要があると考える。

そこで、以下のように「本物がもつ価値を『見抜く・見極める』」を設定した。それらを基に、校内重点研で「見抜く会」と「見極める会」を行い、研究を進めてきた。



「見抜く会」では、想定している材から「活動」、「本物」、「気付かせたいこと」という視点で三色の付箋に書き、ウェビングを行った。

「見極める会」では、ウェビングの付箋を動かし、活動の順番や専門家との出会いのタイミングなどを検討した。

～見抜く会で作成したウェビング～



～見極める会で作成した構想シート～

